2025年度スピリチュアルケア専門講座　講義概要

前　　期		
科目名 講座日程	講義テーマと内容	講師
現代社会と スピリチュアリティ 2025年4月26日 5月10日	テーマ:均質化する社会･される個人…責任から逃避する態度への問い 自らの安定のために、社会の合理的と思える権威に従い、均質化される生き方に疑問を抱かずに従う人が増えている。そうした現状に対して、個々が責任ある態度をとることで、私たち一人ひとりが、かけがえのない存在になっていくことを明らかにする。	佐藤俊一
スピリチュアルケア 原論 2025年4月26日 5月10日	「スピリチュアル」と「ケア」の二つに分けて、それぞれの特徴を明らかにする。スピリチュアルケアの実践に向けての基本的知識と情報を明らかにする。スピリチュアルケアと宗教や心理的ケアの違い、また、キュア（治療）とケア（配慮）の違いなどを明確にする。更に、スピリチュアルケアの歴史、ケアする人に必要な能力など。スピリチュアルケアは患者や利用者にとってどんな援助か。患者のスピリチュアルペイン（痛み）、ニーズ（必要）のアセスメントにも触れる。	窪寺俊之
保健医療と スピリチュアリティ 2025年6月14日	テーマ：死を前にした患者をどう支えるか 緩和ケアの本質は厳しい病状の中でも「生を肯定して」生きられるよう支援することである。緩和ケアにおけるQOLの考え方や患者の支えを強めるために何ができるか、臨床の現場での取り組みを紹介する。	坂下美彦
	テーマ：保健医療の理念と人々の内発的自発性 保健医療、特に“公衆衛生”は日本においては第２次大戦後に用いられるようになったことばであるが、地域で生活する人々と支援者が協働して健やかに過ごせる地域社会を築こうとする公衆衛生の持つ価値理念を紹介する。さらに、その価値理念の中格にある「人々が話し合い、人が持つ力が内発的自発的な力となり、人々のwell-beingが豊かになる場づくり」に、ブラジルの教育者であり哲学者であるパウル・フレイレの教育の考え方を取り入れた例を紹介し、“仲間との力”で一人一人が自らの生活の主体となり、地域社会を構成する者となるあり方を考える。	平野かよ子
宗教と スピリチュアリティ 2025年6月22日	テーマ：宗教や価値観の理解への抵抗や遠慮、可能性と限界 私たちの生き方に及ぼす影響から、キリスト教、仏教、神道や儒教、そして今後の関わり増加が予想されるイスラームなどを視野に入れた、スピリチュアルケアの実践を考える。	葛西賢太
対人援助論(1) 2025年8月9日	テーマ：対人にかかわる実践力を磨く（１） 教育の高度化や専門化という方向性によって、頭で考える(思考する)ことが優先している現状がある。ここでは臨床的態度を学ぶことで、気持ちが動いて身体で感じて行動する力を身につけられるようにする。	佐藤俊一

2025年度スピリチュアルケア専門講座　講義概要

後　　期		
科目名　講座日程	講義テーマと内容	講師
精神医学と スピリチュアリティ① 2025年9月6日	テーマ：心の健康とスピリチュアリティの関連について 　心身の健康を維持・増進するためにスピリチュアリティの果たす役割について、精神科医療の現状を踏まえつつさまざまな角度から検討する。WHOの健康の定義をめぐる議論からも分かるとおり、スピリチュアリティは身体性・精神性・社会性などと並んで人という存在を支える重要な柱であるにもかかわらず、日本の現状において十分な注目を与えられていないこと、その再発見と回復が健康な人格形成に不可欠であることを明らかにする。	石丸昌彦
精神医学と スピリチュアリティ② 2025年10月19日	テーマ：well-beingとBio-psycho-social-spiritualモデルから精神医学を再考する 　価値としてのwell-beingが提唱されて70年、構築主義的なBio-psycho-socialモデルが登場して50年になる。障がいを巡る視点はICIDHの機能障害からICFの関係性の視点で、共生として社会モデルとして再構築された。しかし、ケアをする/受けるあり方の実践の場ではまだ医学モデルが残る。常に生を制限する力との問題に晒される精神医学からwell-beingを再考する。	小川 恵
臨床心理学と スピリチュアリティ 2025年9月6日 10月19日	テーマ：つながりあう「いのち」を生きる 　臨床心理学とスピリチュアルケアに共通する「いのちとそのケア」の捉え方について、さまさまな見解の概観を試みる。スピリチュアルケアにおいて、なぜ「今、ここで」の自己覚知に基づく相互の理解が重視されるのか、また、ケアする者とされる者との「呼応の関係」が大切になる理由を問うてみる。それらを通じて、スピリチュアルケアにおける「Being（相手とともに/自分自身とともに）」の重要性を探究する。	木村登紀子
対人援助論(2) 2025年11月30日	テーマ：対人にかかわる実践力を磨く 　ケアを必要とする相手からの、自覚的なあるいは暗黙の呼びかけに気づき、相手の必要に応えつつそれぞれらしく相互にかかわるケアの在り方を探る。どのような場であっても、相手と共に居る（自分自身とも共に居る）ケアの実践ができるように、基本的な力を修得することをめざす。	木村登紀子
対人援助論(3) 2026年1月25日	テーマ：対人にかかわる実践力を磨く（３） 　他者の中に働くさまざまな価値観や力動を大切にしつつ、ケア者もその力動のなかの一つの要素として関わる。ケア者の自己理解の深まりが求められる。それらを大切にする援助演習をおこなう。	伊藤高章
臨床哲学と スピリチュアリティ 2026年3月8日 3月14日	テーマ：ケアの原点…私たちは、お互いにケアしあう存在である 　なぜ、スピリチュアリティが求められるのか。これまでの対人にかかわる科学主義的態度を検証し、その限界や問題点から検討する 。焦点とするのは、これまで正面から取りあげられなかった、主観や予測できないこと等をテーマとすることで、ケアを生身の関係から基礎づけることである。	佐藤俊一